

水戸まちおごし「MITO」活用

イタリア産ワイン「MITO」で、水戸を伝説のまちに……。水戸と同じローマ字表記のワインをまちおごしに活用しようと、水戸商工会議所メンバーらが、友の会「アモレ・ミト・クラブ」を設立した。「MITO」はイタリア語で「伝説・神話」の意味。友の会に入会すると、3月10日の「水戸の日」にMITOが贈られる。

【鈴木敬子】

ワイン「MITO」は、波町で提供されていた。イタリア北部エミリア・ロマーニャ州のワイナリーで作られ、年間2万本しか生産されない高級ワイン。酸味が強い辛口で、濃厚な料理に合うという。ワイン店「ワインデマミ」（水戸市泉町）を経営する植田真未さんが、年ほど前に仕入れ、飲食店「とう粹庵」（同市千

イタリア産高級ワイン

商議所メンバーら「友の会」

ワイナリーの経営者らと交流を深めた。

実は、水戸市は以前からエミリア・ロマーニャ州と深いつながりがあった。1985年のつくば科学万博をきっかけに、同州と水戸の交流が始まり、87年には同市南町2丁目商店街振興組合が同州ポローニャ市の商店街へ使節団を派遣。両市でそれぞれフェアを開催してきた。水戸市南町2、眼鏡店経営、黒沢輝子さんは「MITOワインは、水戸のPRになるだけでなく、両市のつながりが続くきっかけになる」と話す。

2回目の楽しむ会が9

グラス片手に将来語る

日、「とう粹庵」で開かれ、高橋靖市長らも出席。MITOを片手に今後の水戸のまちづくりを語り合った。和田会頭は「まずは会員を募って、MITOを大切な時に飲む習慣を広めていきたい。ワインにちなみ、水戸が伝説のまち」と呼ばれるよう

うなまちづくりをしていきたい」と展望を語った。友の会「アモレ・ミト・クラブ」は年会費1万円。MITOはワインデマミでも販売。とう粹庵などでも飲むことができるという。問い合わせはワインデマミ（029・224・4301）。



ワイン「MITO」を紹介する植田真未さん。水戸市泉町の「ワインデマミ」で